

次代を担う若手大学人育成イニシアティブ

(実施期間：平成 19～23 年度)

実施機関：筑波大学（代表者：山田 信博）

課題の概要

拠点形成活動を強力に展開し、大学全体の教育研究水準を向上させる新たな枠組み」として、「戦略イニシアティブ推進機構」を平成 19 年度に創設する。本課題は当推進機構を活用することで、効果的に人材育成を加速するものであり、国内外から生命・自然科学分野の 15 名の優れた若手研究者を国際公募により特任准教授・助教として任用し、5 年後のテニユア審査を経て、教授・准教授に昇任させる。また、学長が統括する若手研究者育成推進委員会及びメンターが若手研究者を支援し、優れた中間評価を受けた若手研究者に研究資金等のインセンティブを付与する。さらに、全ての部局・組織で、新規採用の助教に対して、5 年のテニユア・トラック制または任期制を導入・定着させる。

(1) 総合評価（所期の計画と同等の取組が行われている）

採択前からの人事制度改革の基盤の上に、全ての新規採用助教へのテニユア・トラック制導入や本課題の後継制度の開始など、本課題の実施を契機として更なる人材システム改革を着実に推進しており、全学に対する波及効果も見られることは評価される。また、若手研究者の育成目標が明確であり、マネジメント力を養成するために設置された若手研究者運営調整委員会では、若手研究者の自主的で活発な取組が行われていることも評価される。本課題実施の効果の検証、追跡調査の実施など、実施期間終了後に取組むべきとされる課題も具体的であり、継続性、発展性は高い。今後は、実施期間終了後の、本課題の後継となる「重点支援型」と各部局の「一般型」のテニユア・トラック制の二本立ての構想について、両制度の差異・効果を十分に検証し、制度設計の改善を行うことが望まれる。

<総合評価：B>

(2) 個別評価

①進捗状況

中間評価及びテニユア審査基準の策定、若手研究者運営調整委員会の設置・運用、教員評価システムの確立など、中間時の目標は概ね達成され、順調に進捗しているものと評価される。特に、本課題採択前の基礎医学・生物科学系におけるテニユア・トラック制の導入実績を基に人事制度改革を推進し、平成 19 年度より全ての新規採用助教及び一部の准教授を対象としたテニユア・トラック制を導入したことは、高く評価される。

②国際公募・審査・業績評価

国際公募の応募者に対し、各専門分野での一次・二次選考後、半数以上が国内外の学外者から構成される審査・アドバイザリー委員会での三次選考が行われる等、公平性・透明性確保の努力がなされていることは評価される。国際的に多彩な応募があり、採用者の自校出身者率も低く、選考方法、採用は適切である。今後、女性研究者・外国籍研究者の採用を増やすために、環境整備、公募・審査、人事制度等における創案とその実践が望まれる。

③人材養成システム改革（上記②以外の制度設計に基づく実施内容・実績）

「研究、教育、マネジメントの三つの能力(三位一体の能力)を有する大学人」という若手研究者の育成目標が明確であり、育成目標が中間評価・テニユア審査基準と連動していることは評価される。若手研究者専用コア・ファシリティという同一の場での密接な交流が行われており、異分野の研究者とのつながりから、新たな共同研究が生まれる効果も期待される。全体的にテニユア・トラック制に関する設計について詳細に議論され、人材育成の取組も行われ、テニユア枠が100%確保されている点も評価される。中間評価・テニユア審査基準は、若手研究者の意見聴取、異議申立制度の設定など透明性が高く、インパクトファクターやエフォート率などの数値的指標による客観性確保への努力も見られる。分野や若手研究者の個性の差異によって公平性が損なわれることがないよう、十分な配慮が望まれる。

④人材養成システム改革（上記②以外の制度設計に対するマネジメント）

「戦略イニシアティブ推進機構」により、学内資金、研究スペース、事務職員の配置等、本課題の運営全般にわたって大学資源の重点的な配分を受けており、テニユア・トラック制導入は軌道に乗っているものと評価される。また、マネジメント力を養成するために15名の若手研究者で組織する若手研究者運営調整委員会が設置され、国際シンポジウム・セミナーの企画・開催、若手研究者・事務合同会議の設置・開催等が活発に行われていることは、若手研究者の自主性涵養のための有効な取組として高く評価される。今後も若手研究者の事務的負担軽減への配慮を行いながら継続・発展させることが期待される。

⑤今後の進め方

各部局で全ての助教（一部准教授も含む）に対して一定のスペースと基本的経費を配分する「一般型」テニユア・トラック制とは別に、「戦略イニシアティブ推進機構」に自主経費で「重点支援型」テニユア・トラック制を本課題終了後の後継として適用する計画は具体的であり評価される。本課題実施による成果を反映させるための全学レベルのワーキンググループを設置し検討を開始しており、限られた資源を有効活用する具体的な取組の策定が期待される。今後は、全学的取組への理解を得やすい学内環境を活かして、「重点支援型」テニユア・トラック制を基礎生物学・医学分野から全学へ波及させることが望まれる。

⑥実施期間終了後の継続性

「重点支援型」の若手研究者は、将来各部局に配属されることになることから、「重点支援型」と「一般型」の両テニユア・トラック制度間の調整、全学的な融合が今後の課題であるが、現状を分析し課題終了後に向けた検討の取組がなされていることは評価される。採択前からの人事制度改革の実績を基に、前倒しで全ての新規採用助教へのテニユア・トラック制が導入されたことや、本課題の後継となる制度が実施段階に入ることから、制度設計の改善を図ることで今後の継続・発展が期待できる。

（3）評価結果

総合評価	進捗状況	国際公募・審査・業績評価	人材養成システム改革（実施内容・実績）	人材養成システム改革（マネジメント）	今後の進め方	実施期間終了後の継続性
B	b	b	b	a	b	b